

昨日、熊本で開幕した女子ハンドボール世界選手権。いずれも高松商高出身で北国銀行所属の塩田沙代、河田知美、大山真奈の3選手が日本代表の精鋭21人に選ばれ、コートで奮闘している。

来年の東京五輪に開催国枠での出場が決まっている日本女子にとって、世界選手権はま

さに“五輪前哨戦”。こうを必ず見せたい

世界の強豪を相手に真価が問われる戦いだ。

日本女子の五輪出場は1976年モントリオール大会以来。自國開催の五輪に向けて弾みをつけると同時に、競技の注目度を上げる機会にもしたいところだろう。6月の日韓定期戦後の取材で、塩田選手は力強くこう言つていた。「日本女子はやれるんだ、というと

の国立代々木競技場で開催された国際大会では、白星なく終わつた日本。ただ、2年前の世界選手権を制したフランスに23-28と粘るなど、各選手が随所に成長を見せている。今大会、まずは1次リーグ突破を目指し、全員が最高のパフォーマンスを発揮してほしい。

(運動部・西森健太)